

## 症例検討

～フェンタニルテープ製剤を半分貼付する方法～

2017/12/8

茜部店

[はじめに]

先日、退院時共同指導に参加しターミナルの患者さんを受け持つこととなった。そのカンファレンスで、患者さんは現在ワンデュロパッチ 0.84mg を1日 1.5 枚使用していると情報提供を受けた (1.5 枚の使用方法は後述)。在宅担当予定の訪問看護師からパッチの調整方法について「在宅では病院のように手間を掛けることは困難。介護者は 80 歳のご主人なので、半分に切って貼付するなど、他に簡便な方法はないか」と相談を受けた。現在、病院にて行っている方法を伺い、他に良い手技がないか検討してみた。

[フェンタニルテープ貼付剤を 0.5 枚貼付する方法 (現在、病院にて行っている方法)]

- ① 先にフィルムドレッシング剤 (テガダーム、オプサイトなど) を肌に貼る。  
胸、腹、上腕、大腿部のうち、皮膚のかさつきがなくゴツゴツしていない所を選ぶこと。
- ② 薬剤を取り出す
- ③ 薬剤を正確に二等分 (測定が必要) し、真ん中に線を引く。
- ④ 先に貼ったフィルムドレッシング材の端と薬剤に引いた真ん中の線が重なるように貼る。  
貼った後はテープ剤の上に手の平を当て 30 秒抑え密着させる。

[調査結果]

◇ ワンデュロパッチ 添付文書より

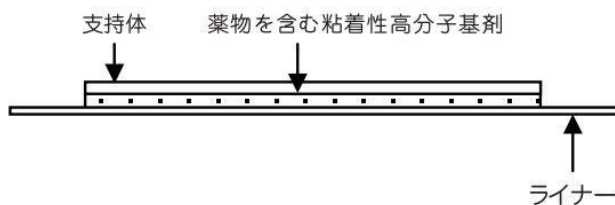
[高齢者への投与]

高齢者には副作用の発現に注意し、慎重に投与すること。

[高齢者ではフェンタニルのクリアランスが低下し、血中濃度消失半減期の延長がみられ、若年者に比べ感受性が高いことが示唆されている。]

[適用上の注意]

本剤をハサミ等で切って使用しないこと。また、傷ついたパッチは使用しないこと。



## ☆ ヤンセンファーマ株式会社コールセンターの回答

製剤を切っても中の薬剤が出ないようにはなっている。しかし吸収量や安定性のデータがない（もともと半分に切って使用することを仮定していない）ため半分に切って貼ることは推奨しない。

また、半分に切った場合、残りの半分を捨てることになるが、それがいつの間にか肌に貼りついてたという医療事故の報告がある。このように薬が行方不明になりかねないので切らないように、とのこと。

### [今回の問題点]

- ✓ ワンデュロパッチは 0.84、1.7、3.4、5、6、7mg の規格のみ
- ✓ 訪問看護は時間が限られているため煩雑なことはなるべく避けたい
- ✓ 高齢の介護者では 1 mm 単位での測定が困難、またフィルムドレッシング材は非常に薄いため取扱いが難しい
- ✓ フィルムドレッシング材のコスト（自費）がかかる
- ✓ 半分に切った場合、残りの半分を紛失または誤って貼付してしまう恐れがある

### [考察]

フィルムドレッシング剤を用いて貼付面積を調節し、代謝が低下している高齢者に対して過量投与にならないよう慎重に薬物投与を行っている症例である。

貼付面積調整方法は医療現場ではよく用いられている手法であるが、フィルムドレッシング材の種類によって透過率が違うこと、3層になっているフィルムドレッシング材をどこまではがすか（本体と離れ紙、キャリアーの3層がある）によって薬物の残存率に違いがでてくるのではないかと考えられる。よってこの方法により用量がしっかりコントロールできるかは不明である。

また、半分に切ることは、薬剤が適正な量でなくなるだけでなく薬の紛失や事故のリスクが高くなるので、このような行為は絶対避けることを看護師や介護者に指導する必要がある。

一方で、在宅を受け持つ薬局側から、1日の使用枚数が整数で疼痛コントロールされるよう提案することも必要である。高齢者への投与に関し医師が配慮している点を評価しつつ、退院前に介護者の負担軽減に繋がるような用量調節をして頂くよう、積極的に提案していくことが重要であると考えます。

### [今回のケースでは]

カンファレンスで以上のような問題点が明らかになったので、翌日から **Dose up** を試みてもらい、結果ワンデュロパッチ 1.7mg 1日1枚でコントロールすることができ、退院の運びとなった。

### [参考文献]

ワンデュロパッチ添付文書、ヤンセンファーマ株式会社ホームページ